

# 運輸新聞

E-mail inquiry@unyu.co.jp URL http://www.unyu.co.jp

発行所・運輸新聞株式会社  
東京都荒川区西日暮里3-6-10  
佐々木ビル3F 〒116-0013  
TEL03-5685-0035  
関西支社 大阪市中央区瓦町1-3-2  
〒541-0048 TEL06-6209-3261  
発行人・野田裕之  
火・金発行(祝日を除く)  
3,600円/月(送料・税込)

2021年

11月16日(火)

第17444号

## 掲載企業募集

物流マッチングサイト



詳細はこちら



仲介手数料なし!

各社の倉庫施設をWEBでPRします

### 2021年度 中間決算 大幅増益目立つ 半数 前期2桁減 / 今期2桁増

2022年3月期第2四半期決算

	20年度		21年度	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
遠州トラック	18,542	1,390	20,605	1,579
岡山県貨物運送	19,040	321	19,292	593
上組	115,038	11,162	128,968	14,342
近鉄エクスプレス	263,718	13,008	424,099	24,703
鴻池運輸	145,860	1,586	145,398	5,325
C&FロジHD	56,267	3,290	56,284	3,030
住友倉庫	92,945	4,440	105,789	9,540
セイノーHD	279,884	9,085	294,954	12,646
センコーGHD	273,449	9,641	300,762	11,705
センコン物流	7,580	318	8,351	429
澁澤倉庫	32,763	1,997	35,250	2,289
タカセ	3,594	58	4,216	127
東部ネットワーク	4,506	392	4,593	269
東陽倉庫	13,476	484	14,015	680
トナミHD	31,568	1,011	32,586	1,866
南総通運	6,792	698	7,402	808
日新	69,183	△251	85,931	3,603
日本石油輸送	14,463	242	15,416	394
日本通運(21年12月期)	964,464	20,875	1,104,219	36,300
日本トランスシティ	48,058	1,544	55,731	3,393
福山通運	138,431	9,476	141,999	10,958
丸全昭和運輸	57,732	4,401	65,732	5,370
ヤマトHD	806,067	26,915	865,470	31,690

日本通運の2021年度中間決算は、8日から12日の間に発表された23社のうち増収は22社、営業増益は21社となり、8日以前に発表した22社(本紙9日付)の状況とほぼ同様だった。今回、増益となった21社はすべて2ケタ増益で、これまでに発表した45社の8割を超える37社が2ケタ増益となった。うち約半数の18社が4割を超える増益。通期見通しを上方修正する企業も45社中17社に達した。この結果、前中間期2ケタ減益・今中間期2ケタ増益はほぼ半数の21社にのぼった。

日本通運の2021年度中間決算は、8日から12日の間に発表された。日本通運は、航空・海運・トラックの3軸を軸とし、Cが堅調に推移したが、山陽線の不通や半導体不足による自動車工場の稼働停止などにより増収減益となった。

10月に入って航空・海運・トラックの3軸が予想以上に伸びており、通期予想を上方修正した。次期(2022年1-12月)は、売上高2兆2

538億円、営業利益853億円と試算。今期は5カ年の経営計画の中間年に当たる。堀切智副社長は今後の取り組みについて、「コア事業戦略であるグローバル営業体制は整ってきており、産業軸、事業軸、エリア軸の3軸アプローチにより成長にドライブをかける」と述べるとともに、長期ビジョンに向けて「M&Aによるグローバルメカフオワード

1を目標することは最重要課題だが、最近のメカフオワードは規模の拡大を追求するあまり買収額がEBITの15倍と高値となっている」と指摘。価値を慎重に見極める姿勢も示した。

YD 法人売上391億円増  
ヤマトホールディングスの2022年3月期連結中間決算は、売上高が前年同期比59.4億円(7.4%)増の865億470万円となった。内訳はリテール部門が150億円増の871.7億円、法人部門が39.1億円増の863.6億円、その他52億820万円。

JR 連結売上高、14億円増  
JR貨物の2022年3月期連結中間決算は、売上高90.5億円(前年同期比14億円増)、営業利益マイナス4億円(同9億円増)、経常利益はマイナス8億円(同10億円増)。

2ケタの大幅増益  
トナミHDの2022年3月期連結中間決算は、売上高65.7億円(前年同期比2.6%増)、営業利益36億1600万円(同49.7%増)、経常利益38億8500万円(同42.5%増)、当期利益26億8900万円(同62.6%増)。期末配当は決算発表前日の11日に決算発表を待たず、前回は10円増配(5月)予想から10円増配の60円とした。

## 国土交通省 荷主に協議求める 運賃に燃料価格反映を

燃料価格が上昇する中、国土交通省は荷主関係団体に対し、燃料価格の上昇分を反映した運賃・料金に見直すためトラック運送事業者と協議するよう求める通達を10日に発した。

通達内容は2項目。適正な運賃・料金見直しへトラック運送事業者と協議することを明記した。

燃料価格の上昇分は、標準的な運賃の設定や燃料サーチャージの導入により、適切な運賃収受につなげることが物流の持続可能性を確保する上で重要であり、荷主とトラック運送事業者が協議して運賃調整を締結することとは取引環境適正化に不可欠としている(4面に関連記事)。

燃料価格上昇分は、標準的な運賃の設定や燃料サーチャージの導入により、適切な運賃収受につなげることが物流の持続可能性を確保する上で重要であり、荷主とトラック運送事業者が協議して運賃調整を締結することとは取引環境適正化に不可欠としている(4面に関連記事)。

反動増で特積みは11カ月連続増  
トナミHDの8月分トラック輸送量は500万7618ト(前年同月比6.4%増)となり、これで昨年10月以降11カ月連続の増加となった。一般トラック事業者による輸送量は同4.1%増で、今年3月以降6カ月連続の増加。

宅配便3.9%増 DM便4.3%減  
ヤマト運輸の10月の小口貨物取扱実績は、宅配便4960万5146個(前年同月比3.9%増)、クロネコDM便7467万1639冊(同4.3%減)、小口貨物全体の取り扱い量は2億4960万5146個(同4.3%増)となった。

宅配便取扱個数は3億7357万個(前年同月比1.2%増)。宅配便は、20年度は11.6%増だったが、今年度に入り微増と微減を繰り返している。

2ケタの大幅増益  
トナミHDの2022年3月期連結中間決算は、売上高65.7億円(前年同期比2.6%増)、営業利益36億1600万円(同49.7%増)、経常利益38億8500万円(同42.5%増)、当期利益26億8900万円(同62.6%増)。

2ケタの大幅増益  
トナミHDの2022年3月期連結中間決算は、売上高65.7億円(前年同期比2.6%増)、営業利益36億1600万円(同49.7%増)、経常利益38億8500万円(同42.5%増)、当期利益26億8900万円(同62.6%増)。

2ケタの大幅増益  
トナミHDの2022年3月期連結中間決算は、売上高65.7億円(前年同期比2.6%増)、営業利益36億1600万円(同49.7%増)、経常利益38億8500万円(同42.5%増)、当期利益26億8900万円(同62.6%増)。